廓空無古

へ13
2947
32

32
特
へ13
2947
32

文政元カ 四山人

鄙宇久為壽序

濁水。情ふしといえども。月を浮べて。
自らつ。清えきよ。草木。言ざるども。
雨ふ値て。自然と。光輝く。和光
同塵ん。結縁の始也。八相成道へ。

深川堂

以て其後を論ずるとや。倩〳〵
維看べ。毫光薩婆の。初更錯ふ。
雞妓伽閨の。有為轉變を惜む。
雷光石火の。影の中ふ。生死去来の
睦言も。如何定離の。別苦あらん。

夫世の。幻相を観ずるふ。市桁廛
まて。大和柿記り。磨草稿囊く。
撞光顕彩。其苦労い。屠文の
両師。凰東獺妓ハ。志摩登美ふ。
名高く。三弦の酔書ハ。蜀先生ふ

止め申す。青樓の小格子ハ。帰雁
料理の。摘み物ハ。旬〳〵。西河岸の
鰹舌風呂。青善の。鮪ハ。
切ハ八丁を。焼き。ハ里半の角炮烙
流行ハ。闇ハ〳〵ゼト。獨嘆息ス〳〵

ハ。新ハ。訪て来ル。通子ハ
書肆。鶴壽堂の主人也。千昔
先生。去年。編ル。籬の菊ハ。
後編ハ。ドデス如何で。蕎麦の。十
番ハ。待て居ます。グット真

面白。催促ハ不ト天呑廻。山樵と。
苔を掃て。それや今宵の主人
とハ。実ハ奥廊の。詰るべし。
落花とより。心あきぞ。流水
矢ハ意ハ。行りのハ。如斯耶。

骨夜を不捨。鳴呼繁花散
春色人を悩して。眠を得ぎ
と変ぎ。

豊樂卿之隠士

戊寅年 山人誌

白水画

○目録

○前章ハ
入相の鐘ふりゆりや己が名の。響を
知らで杉をまつふらん。その古寺の
測量して瀬とあるの声。寂〻として
口を閉ぢ
花よりもあざやかなる紅葉をとび拾ふ。奥を
尋ねと侍ぞそらあるきそのころい
沙弥して巖とあるの頌。洋〻として
耳ふ満つ

○後章ハ

離の花後編

廓宇久為壽

山人著

○前章

花街の春色。柳栢の光景。俯て察。仰で観ず
言語を示の。四季倶ふ。紅白妍を争ひて。貴妃を
歌き。李夫人を靡を。その章臺ゐ。登るの嬌者
黄金を。砕のぐく。鼎を鏑のぐく。拔て聊

惜む心あるべし。殆侠客の謂あるべし。栄枯衰楽の
相追ふこと。昨日の現今日の夢。誰か常有とせざらん
や。人皆目前をのみ識て。背後を視ること少し。
只時を汎ひ光陰を送て。遂ふ元亨の悔あることを
知る者少し。古今ふ稀なり。爰ふ亀鑑の客。忠兵衛と
梅川と。相別深てより。恋を除て。真実づく乗ふ
漆膠の契を深くしが。情を弱く身の悲しさに
偽窓。邪も浮萍の。深ふ住むこの我さらとて。

まさきちあき人やあり。同じ情の捨がたくて。風ふ尾花の
いと乱まほく。結び繋ぐる漆芳尾の。あめく籠ぞら
忍れど。あまりて人の目ふも洩れ。とろ仇名も。立田
歌。ふさ反ぞるるやと。疑ふ中の島田の。きあく
八方ふ身を。意の歌と思ふりのうら。恋や
を為ふ形。中の浦やの客と。梅川がもとく
通ひ〜ぶ。梅川これを殆と心をひ〜。宋〜太夫
ふ換て。八方ふ身をまるべき心ふ。寄ぞうるさ

けまど。あるハ義理の繁〳〵も。嬉〳〵と花の装
ものをとりて入せる。憂気なるひ右まくいよ〳〵
心も荒磯の。浪小流々〳〵拾小糸。変りあき身を。泡
ありと。恐ぶ出る袖衣折りひの丈を。梅川が色〳〵
と。言沢〳〵ほく〳〵ハ。客もとるまし。仲の町へもいで
まく〳〵と。堪ちく拵〳〵。紙屋も。けしてもどの内所うら
會禁も今。忘れぶ。一風ふりさかや
も。仲の丁八右ゑ門が遣ひとて。知るを知て右まくが紙と

遣ひ〳〵服を不。人目も恥ぢ梅川を。打鄭あ〳〵なる
傍如き人。何解語もあら〳〵。三室山のあり時分
氣も紅葉だの。いろ〳〵と八右ゑ門がよま〳〵今々。俗方
あく〳〵も。想ひきを〳〵髪切て。涙〳〵沸もこ家金
ゆ。ハ去ふ業の家あふぐ。是まとゝ去る右ゑ門が。
夜の仕立梅川ぶ。ハ髪の結類〳〵抜て。差ひりのを
呼ぶ。我きをゝ不。仇ある涙名も。口惜や是ハよ斯
薄情女。かの〳〵ぶ。契石。媚施容徒ふいをぞ。あき

まいくと。服元さくそこ〳〵ふ。立出新折ゝら。雑四
の折末。ガッチリ。そこし。和ぶ傘。時雨ふ。そこ〳〵し
前編の。末意へ荒地。かくのごと。図。名やのの人
久〳〵ぶりで。ぶんごろ。ぶら。高ひ。ぶ。お。ぶ〳〵
ぶる。へトンひ。ぶら。図。ぶ。ゝや。ぶ。さんよ。ひ。ぶ。
まー〳〵。御。ホ。ぶ。ぶ〳〵。ぶ。で。ぶ。ぶ。ま。ぶ。図。ひ。ぶ。
ぶ。で。ぶ。ぶ。先。刻。ぶ。十。ぶ。で。ぶ。ぶ。図。ぶ。ゝや。ぶ。で
ぶ。ぶ。ほ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。

島屋へ。拙宅でござりまもりく。

右イヤもう。汚

やも。面白く移くらら。矢張もとの通り。此内ふ仕

よくと。おりて来さ。沢サトウ次郎吉の家へ

亀吉 ふ

おりてきさり。こまこい出さくさんぺり。孝りませトひざを二ッとんと

たゝいて大ぜいの

そぞくさり。ちりふむくひ。二階のお客さるの。此方のうらふへ

らろ孝る法りざらら。拙宅送りやて来さろせく。拙

ぐけふ行むくの。蚤のあを高れめく。三図 アイト注意

きたち 八ぐん 拙宅ごヨ。お腹りのもとらく。早くて

二ちうくあげる 滝モシ 横川さんの。時日の 拵えも。永のうち
まーーさぐ。ぞーいふもんでござうまと。何ろーーゐやも
困さようをでござうまーーさぐ。滝まーーさうこ 出井
戸郷の。柳ぢろーーを見るゑ。滝のさゑ絵のと
ろ。さ。おぐ。おさゑらゆく沢サ。いろてく。アノ横川と云
ゆふ。ふうゆふよら絵くさんぐ。浮ゑうのぐヨ時るの
沢うら。整と又ゆさるゆもあ。ぐゐ閉ふ居ても
ゑもぐ滝ぢ。さうて新その通りの沢で。上るるゆも

ちうら絵くゆく。遠曲ユ面でまーー斗。今夜元を行
ゆく。ゆ。横川ぐ西へ行てふさ所ぐ。まろ。ぞり。ぼ方の。ゆふ
ろうい。グワト。あうぐ。入髪を引抜て。うんるふきもを
ぐ。清さゆさ理屋さ。あんゆふたア。新ぐふ迷ろうも
ろうちの不運とい。ゑ。ぐら。家出きれてとおもふと
ぐうゆ心怒るゆ。ぞうりサ。ゆ。ぞ。ろくくー。怒元ゆ
ぜぐ。猛ゆーーてうちく来ふも。幸ゆ。ふ。場る末木
ゆー。昔別深の。ぞ。ぞ。沢サ。新母ーーの沢サ 滝

無しーあがら。まーどや。清やのの米ぐ。ぐーもの。ぐーぐう
ままも 右 何ある。ぐひるぐ。移へ。をの。ぐ。ままーを
清て。ぐー。ぐーう。ぐーとやうと。ぐへ。を。寄。ぐ。ふ。排て
ぐるぐりぐ。 亀 ぐーあらあ。ぐあさの。ぐ。ぐ。ぐ性ぐ。ぐら
何。ぐもぐの。ぐ。ぐ。ぐりませんぐ。ぐ。ぐ。

寿の方がよりごぎりまあせ　右　ぞふう法がありや
あるいとみいそひでありやをこと出るおりそあそ
たなとものまんまんをえつけて　万　モシ　差だんな
ぞふいふまんでごぎりまあせへ私いぬあさがへらうあ
つとけ。あひで　ゆ　おが梅さんい。藤を記て
一向むちうの大撰き。清やの俳句ふ。邪ふうて
ちやちりの。強勢ふ勝を。法しまあ。それふ
いあ〳〵さんあまり急ひで通るとて。おまちく
這入とらふ拍子。命ふうら来るあふ。家商てコレ

六

ぞらうじませ。ろ無知華の。ぞうとサトいふ。痛ふ新
ふ式あ。ア　右　ア　ぞらひその家あさのふ。ぞれぞョ
万　ア　あまあさだへ。それとふ知ぞ。婦さのまふ。今まで
恨やー〳〵。思うて居まあ〳〵。まいさふと中の清やゆ
梅川さんの新が。ぞふも出氣の毒でぞうまもゆく
いうまふあ一先。拵まあて来てあせく。ゆ　ウット
言迫山ふて物と。義をうく〳〵て。源角く。強者
まあ〳〵おが。ぞうんく。あさまでとうふ。急殺。蛇やと

又迚でゆくりまーくあれいきろくござりまます
伺わいさせ是ゆや。者ろと海ひ紙が。ござりま
者ろうら。いづき徇をさきろてのらろ者るるがら
忠 まりくーあれと一緒ふ者るがつ〻ト五アまを引つき
まんアまれおち川がりくいるるるうとれひ
まをふつのそ汐ト出を者まひづやの図へよる 万 ぶろ行モミ口ろ
見形ト云を 忠 ヨ云サ 四ろ入ゆくまん
つあがる 忠 のらろ者りませトさきふ云てあんあのーまが
あんぐをよくのらろ者りまーさ。今ぐんいよるど

地宮ろ人ござりまます 忠 大キおサユウ 者元 者や
へ人を者てゆせく 者 ハイりくト出ぶり引ろて引ろ
のせてもきろ出 万 ろて ハイて者だんまトあまく者のろのニッを
ろてぶんをるまるふくー
ろてちろと足移く肉ふ大きく者ろさのコレノ者べ
ゆ者るさんふよろしくやてゆせく 者元 者アらせんろ
トたくくまつを引て出て行を 忠 里ハとる者ろと者ろいトゆくる
でもそんころてきアやま 万 かーとまりまーさ三
味者の二めくへあるさのゆ移を墓て者るつり

でござりまもが所をもきろと尋惑て大方
亀やへ捜してやりませうトいてところへ行ていろいろのまぐさいぞる
コレおのこや分ハぶんふそうてのおもいぶうトの
おろかぶうをぶのごョ扶宮あら茅吉ト秀次
ぶえ気でおらら〳〵 亀 アイトたうて 万 まぶ一ッめー
おろうませ 丸 いらさ又心のおもち身さ和で一杯やう
カノトさうぶきをうけるうやのこのめ 亀 大方如那るで
ござりませうトぞんじて扶迎ひの来るをまろて

八

扶ろうまーと 亀 ヘイ中扶様ようよ 四 だんな聖斗
おうらいでござりまも 亀 こふ形の海く丈が一人
扶ぬも 万 宮て扶まごつきトだろさ今ろの嘆サ 丸
亀今夜の乾勿い。茅舞ごョトいふハトくふおたきくふ
ふまんと書ハ 亀 これをさとりむも川ようとーは扶きまのぶる
ちくちくあり をらををあとおぶしと扶くとのきろつくの
矢とききられぶおんまるも 亀 ぶんくようろーくござりまも
きく入まきまーどさせうれ して
さろあらら一すぶ扶のろてまいりまうを扶ろトたうて
一体共亀やハ変りよきこ。茅ハ扶ものやしく茅舞も

華ひ客あきまゝふ。座義のよゝさも沫
の外よろれびたふ勢び。美び老分八ふ。彩と
つげて 亀 モミたさん上そゝ尾でゞゞうまゝと 志
とろゝあゝゞゝく。お畏ゝ〳〵〳〵 トりゝゝゝ

王羲之。文徵明。法帖物をあらく。叢帖の
拓ふ筆法の筆之。孔叢の尾。句絵あり
琴ゝ潮の傍を接し。双六盤ハ。虞氏の
碁のひをあを。あ所接ふいるまで。絹月ハ
金紗まゝの。茶壺の掛軸中の月ハ。八
重ゝ義ゝ丈ハ行ゝもあ。素の月ハ扇
まゝの。ハ重義る蒔絵の書持の。上ハ
二重紙ふ。俳ゝらゝどの。絵補書きん

重で。茶壺の絵ある。ゑがろうどの絵
ぎ。絵。絵ゝ。ゑ。ふ。ゑまでさがる
同も。完茶てあゝも。嘶くだゝ

太

かゝらふ大大ぢを多ゝ
いゝゆるゝん平ゝうゝ
発ぎ

草

ゝ

色

ニ

面

ゝよろこびあり
や玉明のト元の屋月の紳を久ゝて拾ゝろや
ト

巳

万

ヤヤ〳〵〳〵

亀

一すゝあいの粒ふ。たゝん拾堂
ト

優〳〵絵と入事ふ。絵街ふ拾をのを

[illegible]が勢ひ。さぞかし威あつて猛くまで。巫女廟の花は美盛の[illegible]ふ色まー。黒髪村の柳は夜の外ふ和華をあまた。[illegible]月宮の綾紡は天よりや[illegible]向くん。[illegible]宮の工[illegible]地が[illegible]や。[illegible]ふ湧出ーーと。[illegible]時[illegible]ふあくーーて[illegible]まうの[illegible]カッチリ[illegible]名[illegible]ト。[illegible]を[illegible]の[illegible]の[illegible]の

あれば 王 おきやアがれ。夫、此五あく湯りてくるよ 義
まづ〜あぎア。さつきらら後を向ひて。屁をを放
きさう知ぬく 袋 ヲヤ〜夫ヨ 万 大方ふわど。出てくらく
あつび子出と。いふら 王 とろアを知の〜〜 亀 サア
まづ 却ふ用ふ。べらつまあり ま也トかををさをふ 茶 考
さきふたくて
出べ更あの 五 王 万 も絞ふ対絞ふ対まで送る
契内ふ差ひ出ふ人〜〜。ぢぢあくをを片て
家をまら〜。牛万の光景忽ち。叙冥と

十二

あり次の万ハ。猪猟皿さ弁。ろうぢきとー〜て
煙草のどー。光ふひ〜〜是を拶の下口を
運び出也。兵庫風の印ふ大廣言の三ッ和
瓶子さうぢきのをを猪ア敷 右 やゞんあよりきさり
ア活乱ふ酔ふ〜〜 亀 サア〜〜 ちと。ふ体をあさるが
ふぢざりまを 右 ナア二ち物ひるア。琴ともあーぢ
トいふあぢら茶コの上人あるるもとともきたる
をありふせんてぬがせてちんぢうグ仕ふひまり 白米 らくあきのちやうんへ
ふもちやをををてもち
ありぢを 右 さ〜〜アきあうぢトろそ
のむ 亀 さあうあらぢ。ぢきぢん

よゝはあるひハ例の五ツ 忠 あんごゝ門を。葉しげる
ゆゝしき 亀 さつも恍惚ぎきりまるを 忠 そゝ地うを
生きられちやア。却り止も雁ぎもを 亀 ゆゝ。葉を見るが
いゝ 亀 ありがとうぶぎりまも。サアゝゝ お帰ぎ出さうち
出場 よゝ水ト 茶屋ぶ おひくきふちゑ 亀 えんな
一緒ふ同乗る 鉢と 段やせうト ぎゝ ぎんぎんゝゝ
あゝくのとりて 亀 雛屋さん。おらんへ百義お教ま
まりて 茶 モウ お帰りあんをゝ おゝきんへよろしゝト

今まで 張ゆゝ。大風の ゆゝ 弦のごゝく。静
穂さて 峰。ポッチ〳〵ト 私 借声の 月ゆゝ。雛妹
の 豪家。酒宴の。鼎の 独ア。夜ゆゝ 今〳〵ふ
文ふゝ。葉屋ハ今ゝ 月 初今ゝの。富ゆゝ
仲の丁ゝ ゆゝ 〳〵ゝ 〳〵ゝ 〳〵ゝ 〳〵ゝ 〳〵ゝ
ハ。誰 知ふゝ ゆゝ。石 ゆゝ 石 ゆゝ
とゝ。ひゝ。ゝふゝ。 茶 おゝ。ゝゝ。ゝゝ
忠 まゝ 茶 ゆゝ。ゝゝ。ゝゝ。ゝ

おるさどけトうろ者ふきき　素　モシイらアぞアてまア
そうその如　丸　あぜく　まちゃア。ゑひろ
ゑうゑ方へハ。知まあんしたく　丸　梅川　さんとハ別楽の。あらうゑ者富人
祝　素　を呼ちゃア。ゑうゑ者ぞアまも　丸　ととうり抜て
ゑうゑのようくまるト。あふして原作ぞと思うて
ゑんなせく　素　すヤそんなゑ者ぞりを。おゑちあんまト
墨ふ　あアらまョ　丸　実ハのるサ。初舟ゑうゑんなるす
をゑふのもあんまり　別くゑ義ぞりれど。まんぞらえん

ぞゑうくまどとハふ。理屈でもあしく　浪やの門でも義
あ　ゑうゑ義ゑうゑんをさ。おめくのるすもれば。秘蔵ぞあ
あけて。今ゑ義初舟ふ上ッさも。そあく云べまア梅川ふ
実出されさ沢サ　素　あんぶりぞ。そふ云あんしも
ゑうゑな初て岳ゑと梅川さんとの沢ぞふして。そふいふ
るすぶ抜ぞふの世ゑう。ゑうゑと抜ゑうゑ　丸　まく方ふ
まで。そふ思ゑるといふも。身ふゑてふ騒しのられど
梅川ぶ義抜ゑるあふ。唱妓ゑんぞくの来花を形し

八ちうとりゝ宮の。樣ふ身て欲ぢきろさぢぷーの
心あの行事も。其行事も今ぎやアこんな。反古と
あり。そそ後く住手をされてアやア。見えのあるい
うち。はるから身をこゝて。おいろが面を踏ゆくけアやア
ゝ。其廓へつら出ーも出来ゆく沢それゆくこぢと
宴の肉へ上ッさと云ちやアぢふう来ちづひ。ようあれ
ぢも。見も苦界と怨恨ーてぢふぢ。第今さくん
せく。案ちちやアぬーの。經ちんとふんで。拾ぢちい

ぢ。掛川さんふぢぷーてそんな心へ。拾ひくあんをゆくふ
どそんあちやア。浮ひ行もあちせし。除んいちさ。ちひ
るぢ。おあんあんをふらよくこちアーて。拾あげあんぢ
ぢ。ようふ拾ぢちゆを。あんふ来いーもトぢふーても思い痛
ふ。あちちをもんで。拾ぢゆちもヨ。忍人の美人を生
ようなぬくあら形毎ーいくれど。呂欲ふぢうり
逢ッて。宴のありふ消ようふ。ちやアるふ来も去
ぢちーさ子。案ちちやアるの。疑むとふんで。拾

まうを。欲だるのも矣。悔。惚男の為と。若者を
秘いて動めてもと。まをとふとも表はまくせんと
ちんふ心怒て。遂発表ら〜しまヤ。あいをが。云さ
を後ぞヤ後悔して。俳のをが女ふ気のあさりめくで
おぎまうを。掛川さんだりてあり〜をを。紬ふあんを
るヤ。ろくて。秘くろぎんをぶ。銀子さんうけて。おぎり
いをめくと思ひをめく。怪悪してぶ行て。おあげ
ヤ。ート必ぞ。ちの。そぞふつくそろてあるのをとろろ。秘くあて
右のをで。大ぞををちをそ。ちをのをををおをうふうき

十六

右

ちぶへ。そのうくふ。真実ふいろてうんあうろ和ヤうん
しのか。掛川が。おあくのうふ心をあら。俳ろも云分
あーサ。ろちもおのあふあやヤ。編されてむぞ入をあを
地ぐくと。まヤ。外ぞのあく秘くようふ。見ぞ。家入さ
も。来。秘くハ。出ろもあうと。浦く。逢ろさ。丈つきだ
さんをと思やヤ。グット。秘が。をてうふくこうをと。来ろう
句て。ろるも。秘ふある。秘サ。俳もをめくの。和ををめくが
とんろふ。をぐ。ろて。秘く。和をぞ。かくうふあんどみ

そこふやア。捨る神あれば。助る神もひろさして
あるさあら。あいつが面を端やうな。るゆみもあらうし
今とあちやア。さう行くるゆざが。あから羅く猿を
見るやうふ。そなた持も行く身のうく サトまこ ふさぐ 素丸
あんふそいつ行で。おぎアらのそうまぶや梅川さん
もほまふ迷ふ。ふ元で。おぎアらのもとと梅川さん
このうゆア。神の丁でも居るが。あアらのも中でそうふ
ぬふ。思うまあんもといつるよくくあるゆでおぎアら

十七

を一ッさん浮名も立られさ。くまく。あら行あがどこまで
も。ほどげアさ行くけアもを。きてーー元のもめくも。行げ
国が恋人おぎアらいを 忠 義理とそこ気地を立る
心おやア。まアそいつのサる。おぬらんのようふるやく
元ざろう。廓ふあアもや行ある。富人の後の三ッ
行く 素丸 ゆやろうちも言へ。やア。ふく猿を三せく
しと。ふのどくる思ひを後ーのもョ 太 そアもや客
人の恋ひのどハテ。元ざろと面白るゆざろう。ある

りのでもあー　ひだりでも　ものの時ふ　ーくもぬく
るをこれるとなるを　なるを　なるを　なるを　なるを
ふるすぐあるものサ子　ものの　ものの
ふありうちとあるまるやあんもの
るすア　ちとあー　ものの　ものの
ぎつぼくのふが　ものの　ものの　ものの
ふ　ものの　ものの　ものの　ものの
いぢぐもあーいせんぐぞうもあーん　ものの　ものの

せんふいまんふ　ものの　ものの　ものの　ものの
ものの　ものの　ものの　ものの　ものの
だらう　ものの　ものの　ものの　ものの
たらうの　ものの　ものの　ものの　ものの
ぢぐのこのサ　ものの　ものの　ものの　ものの
ものの　ものの　ものの　ものの　ものの
いふりんさ子　ものの　ものの　ものの　ものの
ぎつな。ものの　ものの　ものの　ものの

信心を結ーのをぶぞつもる仕合でこれぞと思く
宮人も おぎろふせんらう。ちんふ苦労を結ーのを
[丸] こりやぶぞつもるらーの [素] アレサ あんのころ
ぎんをえくみもるとヤ ちのを取を。ぢ あけてる
くく ちをしよくくのるトさろーとおろんちんー
[丸] ちろもそふいろて。おくもほんでろんおるのを
ちあらぶぞつぞ著て世活をあてあぶてくの [素]
すやそりやろ。ちんのるすでおぎろふのをうく。おぎろふー

あんもト飛ふ。ふるちふもヨトちぶちのそぶをたろてく
[丸] 刑法のおくふやろ。窮出されるーろんおろの きそちんのふく分をもるる
ちるの時ふ。ぶろーてちろぶつろもろんろ。自慢ら
いぶ嫌でも移くト思ひるをらぶ。ぶつぞ心でろん
あせく [素] ろちく移くろぶ。その著でちをあせぶ
まくちくよびとげくまでおぶろふのを [丸] トいく
もんの今夜だろりの。合せ鏡あろ思ひのさ
ぶろら。ぶを ひとをーふ窮ろて。ろんるせく [素]

だらしのぬーも梅川さんのうをあけて
おりせんとうら。初會の客人とも思うてせぢこんな
るものをやきものサ。一番ひいきをくふねるふ
分ある。こんあふ高い揚ひせんトたゞこと思分てやー屏風を
ぐるまわトたてロ一ー。褥をぬぎ。寝ぐるの
中へ。這へ作者いろくさまのまう
忠 今まで私をうらさ恨りあやり。是うら又梅川が
新を踏んで。アをうーとりこのもおあらんの心一ぐョ

兼 ほびるふーのをうくらい至の新の。泥まくを
かうふるのア。我イせん。名まど。燒ぐう抗ふい火が消
安ひとうら。やきものをうら和まうト又。梅川さんふ見
故られるかう。ふるのが五イをとぐるも踏イせん沢
ふあるまいを 忠 ハテいろさんうちが新を立てうん家
そるりのを。何あが何部まで。まくまでもまくまくの新を立
移くけまやア。人情が渋やせん。そんな来弥ふんが
五まやア。何ふまうんあふ気を擦ふけい整とも

移へのサ。まごころちが運の能のあへ。仕合ト扶へのあ
ちなかゝ元ふ。出舎てまんざら。ろちがふるもを
ゝ。推薬てくんかるもんざら。夫をちゝふ
橋川が新をんけゝを。で岳をのサ 業 ねゝしが
ちゝ元で出あんせば。ちんかゝ嫌ゝう扶ごゝを。業ゝ
ちふかちをが子。いくら客人が扶ごゝをいゝてもんん
ちゝ扶後相ふ。ある女ゝ人も扶ごゝをいせん
夫ごゝろ子。ゝで付ゝ扶へあんゝて。素拾ゝ

世話をゝて。扶ゝんあんゝ 忠 ちゝ扶ゝ元ゝ共
ちゝへの素ゝで。世話をゝゝ。拾ゝゝト元ゝる ちゝ扶ゝ。女
房ふちる元ゝ子 業 ゝろゝて扶ゝんで扶ごゝをいをゝ 忠
ハテいろゝん云ひ出ゝゝゝる扶ゝ。及古ふ右扶へ元ゝ。せゝゝご
からゝをゝで女ゝ元ゝ扶ゝ。新ゝん元ゝ扶ゝ。ちゝいのサ 業 ふの女ゝ
元へゝゝ扶ごゝをの世力ちゝをの世んがゝろちゝ扶ゝゝ。ちゝふ
罠言へゝを女ゝで。ゝゝゝふ扶ゝ。ちゝもモシイゝゝ。ゝゝゝ
ゝゝごんをゝ。ちゝん扶ひィちゝトゝゝ。ゝ扶ゝ扶ごゝ

きっとあんまりと。腹で扨ぎやうをヨト。後へポツチ〳〵の
囲結ひて一向ふ性なとまで。是正ふ死木実沈。
むまづの。時ある哉〳〵
ぎつをの家であやア。恵ふ提且居縁して。智
訓法も恵情ゆうぐ。横川ふ接を浸さ丑て。ゆり
てく 案 もうゝ何もかも。ゆ有ひて手あのまつ〳〵ら
へ。ぎうとまをの心まりせふ。私イせうぐ子てれとまも
横川さんの丑く恵のあんしてのり接名も立あんを

紹の中で扨ぎやひをりのを。実めて扨ひあ〳〵
あんしぐるもたん〳〵扨ぎやひせしし恍惚ちさく
ぎやア。ゆり初も行イをゆうるゆが立イをが。若し
初ゆゆ。そんふるゆでも扨ぎやひも沢あら。ゆ沢を
ふ。いつて扨ぎをあんし 太 初程扨ぐのまの正ゆの
あゆ。ゆ初ゆ。ゆもて居ゆをが。ゆゆやア今ゆ沢して
仕ひ安を 案 そんあらきまくふ沢て扨仕幸あんを
ゑ 太 初れさるゆサ。恵ゆぐ名を大あゆゆも来

ろうちが拾ひ金せん。まさが人のるすだろう。皆めを
してゐる。拾人の身のうへ[周]ばかりあるちやア。那が濃へ
あるの 亲 そりやア。愛とも拾ごろせん。奇きいるゐん
で。拾ごろせをヨ 私らしいろざんをが。恍惚しき害人
とい。ろちやア 今夜がそーめてで。拾ごろせものを 出
ろうア。ごふるもろらしい 亲 アレサ ちんのとろざんを。
鏡をこあんをあら。ごごでも 拾ちてこらうぎのート
あをむけあをあうあるうの
ごをまろうてアんぎる 出 その白人 死 疾を消させて

ちのろんの 亲 拾川さんの名を。拾清ーちんしーろうん
おやア。ごーとも をふ 夫 鬢 ん。まろうせんを 鏡で。拾ぎ
アをいをヨ 出 夫ーやアまろん 庄 時も。ろうーて 盗ぐ 拾ぎ
トたごとををいい後て拾きあうりうごをを
ちろうきのうらあををりあをとをきはさんとを 亲 アレサ 拾待 ちんー
たーう 盗もぐさが。拾ごろしーさト拾ーく拾きあぐり
ちがひごをのををふある
ごんをのいごーよう
ちがごをををうゆーて
アんん ことやア 武 ろぐ 害人 ふたのまれて
淋 病の 拾ちそこーまろ拾で拾ごろををそれ
が拾くふを ろをーとい。ろ拾源ひ 縁で。拾ごろのせう

まん病の[illegible]。娼妓の製をする。法密新
ふるれば。其法を誌さぬ。ろくもの家くふ
よりて。カーつの刑いろまとも。芙蓉の黒焼
い。大概加味を終るあり。右ろつアきあうぐ
ナウトあるくあて。ぐんをせへ 案 ろくあんどうを
ぐうぐの四へのまる ことで
ようあぐらをくへ。これよりたくいぐきをろと
臙のかり初掛川が名を焼清を。ろうち案
[illegible]大[illegible]の中の[illegible]。まん中へ[illegible]

煙草盆の火入の火をとり分てプウ〳〵〳〵ト
吹おとし。屋風の[illegible]ふ。瓶子をとろて。烟
を吉彩。夫人の心を感ぜる。色欲あいぢうぐ
ト実ある哉。和漢ふるふ女の為ふ。身を過まち
る。あけで美べらぐ。哲夫い城を知し。哲
婦い。城を傾〳〵恐るべし〳〵〳〵
右 サア[illegible]ぐ。是でいひぶんいろ〳〵の 案 ろく
あ和ふ 臙〳〵。さぐ[illegible]ぐ[illegible]せろ[illegible]へ 右

右 あアふ。そんあでもぬくのサ 素 まアーッあもんあん

トさうぶきをろていざま 右 こりつゃ。ろぐてく。ゃ。結ぶごト三ぶいのこ

モウ。ろろち。ろろち夜ぶ明るぶ。ちット寝るるす

ふ。ーやせうトまぶく 素 アサ まぶ色ーく。ゃ。ゃ。ゃ。ーぶ

あぶらこいをろら。あ祝ゃ。ーナハ鯨イせんヨトびゃうぶを

たそまアーとあま ものぶく

ーくろろく。ろる ○ 評ふ曰く。右ろく。今ろ月初今ろこハ

いくども。ろろて相撲る中ふて。素ゃ。ゃ。ゃ。

あ新。其ゝが中ふ人ゝて。三弦の琴をかけまゝも。
実や賢きかゝゞ及ふ。三弦の棹ゝの。八乳の高
しゞ見導立て。宮浮しゝふ編ゝのくゞ。金まりふ色
ゝ。神代のむかしゝゝ。ようゝ。手弱女も情深も
ゝの岩戸の奈の中。閑きことを考ゝ。ゝ。情
も細女のみとのりふ。猿をたちからゝの力疲ハ大ふ
神ぐるゝ。愛ふ。嘉嘉ぶ。妹ゝふ。形ぐるう
岩風子會方の。とり扱ひ。ふと。ふと。と云て

夜文小更ふ。若ひ若を呼ぶ。床のうゝふ大安堂
銀の煙管をヤニサふかゝへて。人魚の左平らく
風 コレ宴の内の。東風ゝ。知ぬゝ。成佛不遠さ
幽霊を見ふ時ゝ。面ア出ゝ。姿隠吉新
ゝふを。行ぎゝの子仕事ざの。風ッ吹の湯屋を
見ふ。名を角て。お宮さゝ。出ゝ。嫌と思ふゝ
契方ガナ。お内ゝんゝ。で。家ゝてきア。色ゝ市の。
入札を見ふ。やしく。消ゝるのゝ。ゝふ。ゝ。ゝ。

それハ好ごゑでございます。風 蕾和尚のえのぎゃア
行くが。養ハろーハを乗るも。知て居るがそんを
るアろちの畑ハ行くてんざ。悪 玉極出ハさ及で
ござりまも。皆あのハをが乗くんどざりまも。へいとと
風 コレ 教迦の。誕生を見る事ふ。首ろの菓子
さまちゃア。牧丹芋があら行くろく。悪 イヨざんは
まろくりまーて。菓ハ殺きのつまるのト。入徒るの
ふーん 芋ち場でござりませんてへわく
行くハ

廿七

トむせろうハあまりまろて居る。皆ハいよく。まろく
あつてたいこのをあらざいとろくんとーてのつ
ざろらーい。美く元をハうびあんーて。大きな声も
毒でおざりまもョ。猿のハをあんをるが。ハざるとス
ん場悪ーてハろんあんー。ざろらーいト美ハ茶ハ
たア行せくョ 悪 ハイくさかろうあふ。中猪猴よりトハの
のハろうあざろろうざく出てんでたざろがの 風 ろ乗ハろ
大きなッたらーハトロのろちざびあざらゆく
ハをとあーくまて。居アやろあんまり歩くちゃアざ 折
あんざんまく。ろてく行くとのかろを賓人を。乗来ふ

殺イモト雁ガあさゆのまヨ。行るすハまたら見ねぐち
の。ゆざんをら丁見ざト。人をてぞホぞつぞ
書てやてんあんー 風 コレそんる。ちひもを中ーてもナ
くへかうま。ゆ書きゆだやっ移へうく 折 ヤやぞらーしのそア
ゆをゆあんあんをく。大江山の酒吞童子を見るあう
で。ゆぞゆのを移へ山伏さんの料理ぞんが切て居を
所ゲ。小冊ゆあざらしふゆぞゆのもヨ 風 コレ動く表ア
あヨ。ゆらアまんでもナ。ゆそ夜の物ア八を借の換料

で。モウ読と入船も来ぬアー移へ。契猶も後を
解ちやア。色へ水楽へ。ぞのほまりハ恵と
まるんゆぞらく。年明来の欲ぞりで。ゆ外元へ
ろくくト住るゆを殺へてくまろも。大ろうへぞト
ゆきちんゆのさー。あひをちろくふるらべろるとらくども
ままゆふ大ろをのそぞち少人ぐらふ。ゆぞのあるぎのちまゆふ
ゆ。ろゆしく。表ふしてそろぞそへく。顔が暗
まびよゆト。ちろ心のそち。実ゆ苦界と倡へべー
君子ハ和ーて同へくゆぞ。小人ハ同へくゆて和ゆぞ

后の徴証とあれども。古今の来至あるべ
話説も忠臣の。義露が赤心の情ふ。惟くと
して思ひぞ。深勝の契りを結びしも偏ふ横川が
志を不審。一朝の怒りふ身を忘れ。義ひふ
斬るるの人ありて。夜明ぬれど居続の。二舎利
像ふ一陳乱雲る。音の名義又夜の光象
人。大ひふ憂ありて。湯あぐの増妓。遠くの業
を奪人。業の亟ハタアの名の。伏あして新

ふ畑の雛妓ハ。百姓の姫あもあるべうふぞ。そばうまざら
けふ乱。粉屋の軟到あもあうるべし。知窟も。あ
たと。多くの。お鬱ぬ。瘢の。ろる妻きまで。辰年
知れる。の世界。徳の。裏ふ。ま。くれば今文又
いふる。ぐまりくり。愛ふまま。横川い。契素。露が
産業と。今ひあハせの。伝説あて。往来ひとり。隅一
ぢく。ぞちらも。同じ。表ざ。ぐ。知ふ。太。ぐ。知ふ。戸
幇。同ぶ。晒。落る。云。ふ。ぞ。ぐ。光。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ

を不ふるゆうふ竹のゆうの。兵ヒ皆閉じと云ぬ斗の
ある拳動ふ。桜川いとゞ悲しさの。泪ハ河むん紙を。思
ひの貝のかいもなく兵衛ハ一人森ふ昏もさび
しき屋風の中。藤か邪ケしこまがせる
なさとうけてまるまんぞくあるる桜川が枕ものとくろ
[夾] モレイ御ふらんへ幕を移る。二階ふ右ゑくさんが
御出あんしてアノ猶ぎを御ようあんしくおんまりる
仕事とおりつひをトつそ口惜らってあるもせんあらへ

の客人とつもるアル街中どうんふ知ていまふ
ざんをふ。附所の魚を御あげあんまもの。義やの
ごつ亭さんを。呼び出して一番ハ御じくあらへん
まがようふ御さるとも。ちゝ彼が立てあるせんヨト
ささをふるるもそのもの [横] 先きふ仏もかも出て居イもョふの
るもん角とふつをくれどあの矢をくゆをヤて。
あーさろて中ー竹八あんを右まくさんの。義せう
でも御さるとせんふ。まアをの心の渋いまやど。ゞ

でもあんまり。よっぽどおぢいさまと
あらくぶろうぶくしわらはもうもうもうこうさんおりけまり

二 モシイおあらんへ今わたべさえ
がる。家を捨さんをおいてあんしてと。仲の丁へおいでなんん
まと。捨子先でこいつをおいらんのうすを。ちくおいひ
あんしてあがぶ悲しくうてあるこのせいとさとふあれさうこまで
めのあのてあるれやはし

ふくり 拵モウあんまあつてあんまあ。こまるぐまでふ。苦
労を強いしてぞうぞうその恋会のいようふと思いを
ふが。ふまきの芸でえんを。見練ふ会イまとうるあん

その四討でおぢいさまいせ〳〵邪えふさまれがさまくまわど
為素徐がおぢいさまいて仇のうもも思いてせん。たぐそのこと
ぢうう。亦ふとこのもも深く。若孫でおぢいさまを 夾
おいらんの心がそれでおいでなんまを。拵ずてあり〳〵仕
おをあさこのもくら。まく〳〵拵ぐ立イまとハナいを
りの。宏えさんまとも。この分いておいでなんを客人
でおぢいさまいもらいよく〳〵拵きく。立いしたら今ふも
おいでなんまり。為えでおぢいさまいを。今仲の丁へおいで

あんまりでおさらいまと[illegible]地をみがく廓のあ
らひ出す実法ふ悦物[illegible]元を唱歌ふと情
の深きいふ〜。まあふで[illegible]をい
ひ。仲の丁の兎やの二階一ゝ[illegible]。[illegible]の
探びもいろ〜ら金毛西山ふ[illegible]玉兎ふ海ふ
[illegible]て。[illegible]。[illegible]の色深く。[illegible]
夫秋の。時を知らんや。夜ゝ毎のまぐき
チヤくラゴジ〜〜〜素ら人。北きうの。そゝまぶ〜

連てチョットやくアのゝて。[illegible]さんふよく。その[illegible]を
ヤイまて。おらんのあるのの。[illegible]ふ[illegible]ゝ
[illegible] おありがさん。おぎやのをぐ[illegible]さんも。おをふん
まりんぐらら。[illegible]ととがひよろと。[illegible]ぐゝと[illegible]
[illegible]さんもいろく。[illegible]ふ[illegible]ゝ[illegible]でも。おをひふん
[illegible]ふふ[illegible]ゝ[illegible]。[illegible]く[illegible]をかく[illegible]さんぐら
まり[illegible]て。[illegible]。[illegible]をぐらうじゝ[illegible] [illegible]それでも

「おさ〜」聖の糸ふ夜昼あのきらり〜を思ひかし
きまに切まと巻く〜「おでと来るヤヤと田歩のそーこ
まで出てみさご「いふこも。ろく〜笹ぞふ猿さろ
来至てん関さ風ろん。そばうり。あまぎけ。あつさろん
コリやいよさの。まいきよで。ふざんザ○えを道を造
の仕来を猿〜と歩行一隧ハ。寡も寄う宮
右ろ〜場の接嬢の。手ちるあ〜実あしのうら
刑漆。今ちるもあらして。岳繍ふ事華のゆり

おや待ぐらん。豊ふ又幇間万里ハ。ひて橋川が
息沢を差りろまびたえが今日の仕事を蒙
の毒ふ弁ひ。寡ちるやの房りをひそろふ言葉
ちさぎ〜き
ちを屋ふて。雛嫁橋夜ふ来〜て。ねうひそ〜
〜〜〜〜 万いぐまふも羽之日の軽。長やまで一す子 丈
おらんとお法〜て。ふいしさが。そのつりで参を
いまョ 万さちうあらかあぐぞ。ねのらんへよろ〜くト
いそをりゆく〜○光と猿る。鹿も猪の。別まらふ

いとーすぐるもあさらだふそのゑ長い蔵り多り
おろしへ亀やへ立湯豆腐の惣菜ひろ
うけるとも引象られぬ今の世の掃ひメて生
三分三朱あア和ようん玉紙合うう。そんざおご合
をきふさト。おひとをろべくそろぜんのおげて番
くるその西へ入来る横川がちんぞう横来来と
弱 [右] 横来さん おまへのお客をおろて後をとく
[裏] イこエをふ。ちうとそうあーが。おぶうくーてやく

アちーくさョ [右] ハイア おまもの。おもくあアちうトをあーが
ある。サア湯ぞうふご一ッ五ち [裏] おありがくふ。ちうぎ
アちもと一ッおいてごきア いせうトをだふあるちゃこれ不後
ーしのせうトあをろきうで一ッくけるもおえをふいてぎあれがさけ
のいきれひみぜうーしをろぐんせんトタぐろあり
[右] サアくー豆腐をくひナ [裏] おありがくふトゆどうふの
ゆを一トロまの
モシイ右さん。おあらんのろるざんもがるトが者を [右]
横来さんその内を甘ろふがノ。まアろちが蒙を
ちくけのてくん来せく和のるでも移くろとーさ

弦金で乙日の晩ゝら霧雨降続きで
行さ間とり。みその間も知てのそり。帯らく籠
の乃ホーて。今年の勘定ハまア。貸てくまろ
ひまて。人を形んでまよせるまでも懐中をそん
らゝる口惜サ。まんと横川ホ撃の乃。十夜ごり働
て貰てまて。こまるるアゆ[変]ゆーの
お周りまんをるをゆいまさらよりやゆらんも
いやさ。おろせをゆ[変]今とまろちやア。俄今年と

られても仕方ア後ゝが。そこが昔別深と。和光深
ざ[五]そんゆら一すり行てゆアいせろト毒ぎこち
廣りて。彩と横川ホ喜げられが。横川ハ毒て
お毒ホまらんと。ハたろより貰ーー十夜の
金をごろト射毒て盗ろを盗ホ。横毒ホ
ろーーるまゝ。横毒ハ又毒やホいろひこ
ふ。これをお毒ホふろさせが。お毒ホ。男ひごけ
まき金を切て。銀びつくられがごろト射て

上ゑハ太ゑ〳〵掛合。とゞまるーあんばい剃刀
切て。それを漬よ。その内ゑ不いそく

一をーふまよう〳〵ふも三をもーよ〳〵そりう
尾ゆくの巻つふあまるくぐゝそいきく
そのおもそんよりもきくて時ーき命ゝそ
ゝこゝ〳〵さゝそもそゝるきいくゝもそぶぬ
切ゝそよとものふをーふの毛ゝるとゝんとゝそゝ

ちぶねゝ〇ゝとさよふもまゝらふらせーも
ゝゝのふゝゝりの巻るりしをまゝとゝそのむ
あさんさゝそおしくおゆもゝらとゝあー
るをつゝふゝくゝ巻ゝそゝりゝいゝと

ト漬より太ゑ〳〵のうちで物ハ掛川ハ我
ふ人掛ゝられーゝそ配る美味う丁寧ヤト
おゝふ泪のハゝ〳〵又ゝ配る物忘の志

不迫る。真実誅罰くく。高慢あらく々る

夾 おらんの苦労もこんなものためで。おぢさ

とものをおしへさろしておあげ〜〜 因 うんな

契方ぐ為るろさ。手紙おいあげ。ちゃと

立寄て偽らくらさ紙くくつて契礼をよく

拵りく云てくるや 因 そんあらるぶぢ。おそんん

ヨトエとくく 因 コレハ拵の変きんけ〜〜ふぢ。おそ

いてサ子。時ホモウ おあまるくトちらぐろられてるるるるてせちのてるるぢ

見ぬ やうでござるまるる子 因 イヤきろいりのサことと

おぞ そふも。来練ぐ為るさぐ茶を持ぐるるる。

の毒なんざの 因 ろ友のよふ拵と撫の形角力

そ組でるら。負さるのぐふ運サ子 因 いらさ及今と

ぬちやす。さふより乗ホ志要ハ移くトこまよう変や

へ事実を経と万里を連て。西河巻の丁子

風呂ホいさる。拵〜〜契茶湯い高世流移ホ

きて。殺て會摩の風流苦ましし。英ちせり

折詰拵の。菓子。南蛮の器ハ筆を
を深め。西ゝ屋の菓子。楽焼の皿ハ奇
麗あり。表紙の厚ハ口切の式を学ぶ
屋敷先生の画ハ。賓客の目を驚ろか
のーこん蛾の。蛮ものハ。萬蔵の指ちを抓
ゝ苦の塾主。ちとものきう目を面ーゝを
遠上の雅ハ俗拓ををれて古今別の世界
ちり名。ハ之ゝハ品より万ハ別まて。品猶

花川がもゝ来ーも。素麺がひまへを
ちゝ蝋色。隠せど色々梅だちの。絞ハ十ーハ
ハ之さんト。足踏られしハ乱も分ぞ。上彩や
い弟。表ゞ供ひ素ぐるが矣。梅川が西ゝ
さゝぶ法のめ主。ひとゝーよゝ今ハ。生乳蛇
の結合ハ。妹脊ゝ之ゝ山くの。根ゝもゝーや
ようの川。おゝハ流きこの分をくゝて。素ぐるが
産ゝ西ハ。雑妙表口ぐハ。ゝハ赤ゝゝ

胴熱る。客人あら和後生あんを叫。大いに驚く
て。おきてすてまつて斗。おぎやのをヨウ見物を
して和出あんしヨウト。つゝ声ふみ梅川ぎぶしき
より〳〵見物へ別深しでおぎやんを。客人を
おあげあんをトいへい。万治以来でおぎやをヨウ
契ちら客人へ抱ても。おきしふんをト。身があさ
ましきヨウトロぐふを梅モウなまつて。おぎやんし。ろ
ちゝ結ぶヤイちちやア。熱しおきやをトつゝれて

忠こんなるヨアヤ抜て。却て。皆が悔を百がいくト
見より車屋ホ吾。色〳〵下界倉ホ婚く
叫を稽〳〵久。系後の光系ふくしられば嘆を
忠実ハ大敵町とあつて。梅川ホ伴き家ホいとヨび
手張傳まて。系後忘大の家形の。寝姿ホフワト
気の弾つ。腕のかり和系く猛れて清〳〵法。ろ
より梅川見ホりろ深呂一影ホおひ。男ふの
妖妬中と。ぶをろろ甘て。ワトだろうホ嘆き泥也

[illegible]ん〳〵と[illegible]
[illegible]ぐ [夾] モシイ [illegible]
[illegible]ん [illegible] [illegible] [illegible]
[illegible]
い [illegible]の。引[illegible]
中。[illegible]病[illegible]
[夾] モシイ 栗の。粥が出来イきとつられて [illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]中ふ。[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

来丑歳春發販　山人著

娼妓筆硯　花街壽圖女

うき川行ふ風よりくとまる。里まぐれのうらを八幡の
さくせんより。体をさまる。繁生舎かどを売せくく
毋ふ弟。目出さく祝ふてチョン〳〵まく。まあそりく
とと。多のえんさん極秘伝。茅と祝ふより。おろふ
されろ。知るものまちん